

第1回教育振興基本計画・生涯学習推進計画策定委員会 議事録

日 時 令和8年1月15日(木) 13:30~14:40

場 所 長野市役所 第一・第二委員会室 (第一庁舎7階)

出席者 <出席委員>

荒井英治郎委員 市川 寛委員 小川翔生委員 笠井澄人委員

風間悦子委員 木原 均委員 小林和彰委員 小林公子委員

込山令子委員 島田 稔委員 下山真衣委員 関 春奈委員

田中 武委員 塚田まゆり委員 日台和子委員 吉江速人委員

渡邊 徹委員

<事務局> 18名

議 事

1 開 会

2 教育長あいさつ

本日は、第1回長野市教育振興基本計画及び生涯学習推進計画策定委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、皆様には、ご多忙の中にもかかわらず、本策定委員会をご承諾いただきまして、感謝を申し上げます。

本来ならば、委嘱書を委員の皆様お1人お1人に申し上げるところでございますけれども、時間の制約上、大変失礼ながら、お手元にお配りをさせていただいております。ご了解の上、お受けいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

さて、長野市の教育は、「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」の基本理念のもと、各種施策を進めているところですが、「長野市教育振興基本計画」は、この理念を具現化する基本的な方針及び講ずべき施策について、令和9年度からの5年間に取り組むべき、若しくは目指すべき方向や体系・施策を表す計画となっております。

現在の急激に変化する予測困難な時代の中で、コロナ禍を経て、前回の計画の策定時とは、教育を取り巻く社会的背景が大きく変化しております。

特に「GIGAスクール構想」に代表される「教育DXの推進」により、学校現場のICT環境は、目を見張るような整備が進んでいます。

デジタル学習基盤の効果的な活用は、これからの本番だと考えておりますが、AIの目覚ましい発展やSNS上での問題など、情報モラル、またメディアリテラシーの育成強化とともに、デジタルとリアルの学びのバランス感覚を持って、積極的に取り組む必要があるというふうに考えているところであります。

また、現在、国におきましては、次期学習指導要領の改定に向け、検討が進められていきますので、その検討の方向性も見通しながら、個別最適な学び、協働的な学びをさらに推進し、今後5年間、さらにはその先も見据えた計画として参りたいと考えているところでございます。

さらに、生涯学習推進計画の策定についてもお願いをするわけですが、新たな時代における生涯学習振興施策を展開するために、教育振興基本計画の個別計画として、策定するもので、現在の第三次計画では、誰もが生涯にわたり、自発的に学習することができ、その成果が適切に評価される生涯学習社会の実現を目指し、生涯学習の推進を図っているというところでございます。

第四次計画の策定にあたりましては、計画の点検評価をした上で、長野市教育振興基本計画の趣旨、体系との整合を図り、社会の変化や市民のニーズを踏まえた計画として参りたいと考えております。

いずれにいたしましても、両計画の策定にあたりましては、今後の長野市教育のさらなる充実、発展のため、委員の皆様それぞれのそれぞのお立場から忌憚のない、ご意見、ご提案をいただきますよう、またご協力を賜りますようお願いを申し上げます、甚だ簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

皆様どうぞよろしくお願いたします。

3 策定委員の委嘱

委嘱期間 令和8年1月15日から令和10年1月14日まで

4 委員紹介

5 策定委員会の概要

資料2に基づき事務局が説明をした。

6 委員長及び副委員長の選出

委員の互選により、委員長、副委員長を選出した。

委員長 荒井 英治郎 委員

副委員長 小林 和彰 委員

7 諮問

教育長から委員長に、「次期長野市教育振興基本計画」及び「次期長野市生涯学習推進計画」の策定について諮問した。

8 協議事項

(1) 次期長野市教育振興基本計画及び長野市生涯学習推進計画の策定について

資料に基づき事務局が説明をした。

資料3-1 次期長野市教育振興基本計画及び次期長野市生涯学習推進計画策定について

資料3-2 「教育に関する大綱」について

資料3-3 第三次長野市教育振興基本計画

資料 3-4 第三次長野市生涯学習推進計画

委員長 前回と比べ今回は、2つの部会を設定をすること、子供たち自身の意見表明の場などを検討するという話があった。

資料では、事務局の方で課題を挙げているが、皆さんご覧いただき、ご自身のフィールドやご自身の見ている状況から、何か過不足等あれば、後程ご発言いただきたい。もう1点、前回と違う点は、文化やスポーツに関する部分が、他の部局で、個別計画を策定しているため、施策の体系が少し変わってくる可能性がある。

何か意見はあるか。

委員 資料の3-1 スライド5 「教育を取り巻く社会的背景と課題」がリストアップされているが、第三次基本計画から踏襲されるような形で進めていくというか。

事務局 第三次基本計画から、社会的背景が変化し、新たな課題や、継続している課題を記載させていただいている。今後、計画の策定にあたり委員の皆様からご意見をいただき変更していく。

(2) 専門部会について

委員長 専門部会について、事務局から説明願う。

事務局 前回同様に専門部会を設置し、学校教育関係を中心にご検討いただく第1部会、生涯学習関係を中心にご検討いただく第2部会の2つの専門部会を設置したい。生涯学習推進計画は、第2部会で主に検討いただく。委員各位の専門部会の割り振りは、委員長と相談し、調整の上、次回の策定委員会で事務局からご提案ご報告させていただきたい。

委員長 皆様の方でご希望等があれば、あらかじめ事務局の方に伝えてほしい。私と事務局で構成案を考えて、ご提案させていただくことでよいか。

委員 異議なし

(3) その他

次回の開催日 令和8年2月19日(木) 午後

会場 長野市役所 第一・第二委員会室 (第一庁舎7階)

委員長 時間が残っているため、それぞれの分野での課題や、扱ってほしいテーマあるいは策定委員会の進め方、普段の活動内容など、ぜひお聞きしたい。いかがか。

委員 主体的な保育というが、それが良いならなぜ小学校でこれほど不登校が増えているのか。いろんな方法で連携を取っていかないと、幼児教育保育から、どう不登校に繋がっていくかを我々としても、注意していかなくてはいけないと思う。

委員長 主体的な保育と不登校の関係については、保育業界ではそう思われているのか。

委員 結びついているかどうかは分からないが、結果論として小学校で不登校児童が増えていることは事実。幼児教育保育としては、集団的というよりはある程度個別的

に力を入れている。そこがもし関連しているのであれば、お互い考えていかなければならないテーマだと思う。

委員 今の関連だが、毎年、幼保小連携会議や各ブロックに分かれての公開保育や公開授業が行われているが、その在り方を議論する場がないのが問題ではないか。今、小学校で不登校が多く、学校の先生方が苦勞されている。乳幼児教育でも何かできることはないかと、いつも私たちの中で議論となっている。先ほど、子ども主体の保育という話が出たが、言葉自体の持っている意味や、我々が普段考えていることを是非、学校の先生方と意見交換をしたい。ただ、どうしても学校の先生は異動があり、せっかく我々の情報を伝えても、新年度で担当が変わるという課題がある。だから仕組みを少し変えるだけで、いろんな課題が解決していくのではないかと思う。

委員長 資料3-3の5ページをご覧ください。前回策定時のキーワードが「協働」であり、15ページの施策の1-2-4だが、これまでも幼保小中高の連携や、協働をうたっている中で、今のようなご発言が出るということは、まだその実質化が図られていない部分があると思う。次回以降、そのような議論を深めていけたらと思う。他にはいかがか。

委員 私はフリースクールを5年やっているが、あくまでも個人の肌感覚として、自然保育、いわゆる「やまほいく」や、ちょっと特色ある保育園を卒園した児童がフリースクールに来る割合が比較的多いと感じる。それについて問題提起をして、対話することは良いことだと思う。また、不登校の低年齢化が課題で、当スクールも3分の2の利用者が3年生以下である。なかには、1年生から来る子もいるので、両委員がおっしゃった問題の聞き取りや調査をし対話することで、何か新しいものが見えてくるきっかけになればと思う。

委員長 大きな論点かと思う。不登校のお子さんに問題があるのではなく、その環境を我々大人がどうしていくのかという問いとして設定すべきと思っている。他にはどうか。

委員 資料3-1の5ページの教育の課題を拝見すると、ダイバーシティの観点が少し弱いように思う。昨今、インバウンドが非常に多くいらっしやっていて定住される方も非常に増えた。また若年層が、首都圏で就職して長野市に戻ってこないため、我々産業界は、東南アジアの諸外国の大卒の学生を、採用する時代に入ってきている。そのため今までのような性別のジェンダーだけではなく、ナショナルリティーだとかいわゆる目の色、髪の毛の色を含めて、本当の意味での多様性の課題にどう取り組んでいくのか、これからの10年、非常に重要になってくると思う。

それから、ICT事業では、もう基本的には言語はすべて英語。英語教育が始まって、何十年も経つが日本人は、まだ英語をほとんどしゃべれない。グローバルの観点でやはり語学教育の強化を、長野モデルとしてしっかりやっていきたいと思う。

委員長 他にはいかがか。

委員 資料3-4の48、49ページで、「家庭・地域・学校の連携・協働による教育力の向

上」として「家庭の教育力の向上」「地域の教育力の向上」とあり、「教育力」という言葉が出てきているが、「教育力」とは何か。経済力だとか、能力のように「力」がある、強いというような捉え方だと、この家庭の教育力とか、地域の教育力というのは、余りにも漠然としていて、よく分からない。もし体系に入れるのであれば、教育力ではない言葉を、選べれば良いと思うので、施策の体系を考えるときには、検討していただきたい。

委員長 皆様方も、斬新なアイデアをご提案いただけたらと思う。他はどうか。

委員 先ほどの委員と重複だが、I T CやD Xを推進するときに、C O B O LやJ a v aなどのコンピューターの命令文はすべて英語で構成されている。だから、英語力を高めるということは、その分野の発展に繋がるのではないかと思う。

その反面、I C TとかD Xを発展させることについては、前回の教育振興基本計画の中でもうたわれているようだが、私は、教育上はむしろデジタル化しないほうがいいのではないかという考えも持っている。以前の子どもたちを見ていると、手で書いて、足し算引き算割り算をやっていた。それを今は、4、5択で、ボタンを押して答えが出る。地頭がいい生徒を育てるのにどうなのか、という気持ちを持っている。片やI C T、片やアナログの議論があることを、教育の中で考えればいいのではないかと感じる。

あともう1点、先ほどもお話があったが、今、外国人が観光関係も含めて非常に長野市内に増えた。いわゆる多様な人種の分野について、触れるものもあってはどうかと思う。

委員長 ほかに何か意見等あるか。

委員 英語力が大切という話が出たが、私の通っている学校でも年に200時間、外国人の先生と英語だけの授業がある。このような教育は小・中学校からやっていくとより効果があると思っている。以前より英語の授業は増えているが、もっと外国人の先生と話す機会を増やす必要があると考える。

委員長 他にいかがか。よろしいか。

では、皆さん問題意識等々を論点として引き受けさせていただき、また事務局の今後の基礎資料にできればなと思う。

閉会